

「だきしめる」



■エピソード

京子さんの長男の純一君は3歳6ヶ月。もう一人で階段ものぼれるし、シャツのボタンもとめることができます。半年前に美保ちゃんが生まれてからは、聞きわけのよいお兄ちゃんとして振る舞っているようです。今日はみんなで礼子さんの家に遊びにきました。

礼子：「純一君は本当に聞きわけがいいわねえ。一人でおとなしく遊べるのね。それに比べてうちのヒロシはいたずらばかりで。こら！美保ちゃんの服を引っ張ったらだめでしょ！」

すやすやと眠っていた美保ちゃんが、たちまち泣き出してしまいました。

京子：「よしよし、いい子だからね。ミルクがほしいのよね。いまあげるからね。あっ、おしめもぬれているわね。今かえてあげるからね。」

おしめをかえて、用意していたほ乳びんでミルクを与えます。泣きやんでミルクを飲む美保ちゃん。ヒロシ君もじっとのぞき込んでいます。

礼子：「ヒロシも赤ちゃんのときはこんなだったのよ。ほっぺたがまんまるでかわいらしくて…。よく女の子と間違われたのよ。今じゃ、いたずらで傷だらけだけれど。ほら、あっち行って純ちゃんと遊んでいっちゃい。」

京子：「そんなことないわよ。ヒロシ君も素直でいい子よ。うちの純一とも同じ学年になるし、いいお友だちでいてほしいわ。」

礼子：「でも女の子ってやっぱりかわいいわねえ。お母さんの味方になってくれるだろうし。私も次は女の子がほしいな。」

すると突然「ギャー」という声が隣の部屋から聞こえてきました。

京子・礼子：「どうしたの！」

あわてて飛び込んでみると、ヒロシ君



が足を押さえて泣いています。

礼 子：「どうしたのヒロシ！」

ヒロシ：「純ちゃんにたたかれたー。いたいよー！ウーン。」

はっとした京子さんが純一君をみると、積み木をにぎりしめて立っています。

京 子：「どうしたの！なんてことするのよ！あやまりなさい！」

純 一：「あっ。」

（ジョー）純一君はズボンにおもらしをしてしまいました。

京 子：「純一！」

（パチーン！）思わず純一君のほっぺをたたいてしまった京子さん。

純 一：「ママごめんなさい！ ウーン！」

ヒロシ：「ウーン！ウーン！」

…ハッと我に返った京子さん。

とっさに純一君をぎゅっとだきしめると、
純一君はしゃくりあげながら京子さんにしがみついてきます…。



京子さんのひとりごと…

● おもわずたたいてしまったわ。

いつもは聞き分けがよくて助かっているのに…。

何か気に入らないことがあったのかしら。

でも、よくないことをしたときには、
その場できちんとしかれて言われるし、

わがままになったら困るから

たたいてよかったのかもしれないわ。

もうあんなことをしないように
よく言い聞かせておかなくては。

話しあいのポイント

● あなたにもエピソードとおなじような経験はないでしょうか？

● 純一君はなぜこんな行動をしたのでしょうか？